

初穂曳は、神嘗祭を祝い、お初穂を神宮に奉納するとともに、御遷宮に関わる「お木曳行事」「お白石持行事」に繋がる伝統ある伊勢の民俗行事です。

第五十一回

初穂曳

報告

神嘗祭をお祝いする伊勢の秋。3年ぶりの外宮領陸曳は、規模縮小、感染対策を行いながら奉曳車の椀鳴りと、エンヤの声が響きました。



外宮領 間隔をとりマスクを着けての奉曳

10月15日

外宮領 陸曳奉曳

15日外宮領陸曳、16日内宮領川曳として、初穂曳は例年賑やかに開催されてきました。コロナ禍の2年は奉曳を自粛しましたが、50回と歴史を重ね伊勢の民俗行事における奉曳文化を伝えることを大きな目的としている行事「初穂曳」の通常開催にむけて検討を重ね、今年15日外宮領陸曳のみ、できる限りの対策、対応をした奉曳を実施することとなりました。

子どもたちや伊勢神宮奉仕会、市内全団から募った伊勢の町衆を中心に約300名ほどが曳手として一台の奉曳車の綱を手に入りました。短い距離、時間



北御門到着 (外宮)

でしたが秋晴れの天気恵まれ、マスク越しながら、木遣りの唄声、エンヤの掛け声が響き、心ひとつに車を外宮北御門に曳き入れることができました。

曳き込んだ後、お初穂は奉曳車から降ろされ、参加者それぞれが一束ずつ腕に抱えて隊列を作り、整然と奉納へ進みました。



五丈殿 お初穂奉納 (外宮)

神宮のお正月 神嘗祭

神宮のお正月ともいわれ、年間のお祭りでも最も重要な一年の節目となる神嘗祭。10月15日から17日までの3日間、外宮と内宮それぞれにおいて一連の祭祀が行われました。

神嘗祭には、天皇陛下の幣帛(お供え物)を奉納する「奉幣の儀」が行われます。ご正宮に向かう参進など、参拝時間中に行われる行事は参道で奉拝する機会があります。



10月17日内宮 奉幣の儀への参進。



お初穂を奉納したあと正宮へ



内宮領 お初穂は大八車に載せて宇治橋を渡ります

10月16日

内宮領 お初穂奉納

翌16日は、内宮領。例年内宮領川曳の地域は持ち回りで実施されており、今回は、修道学区の長峰連合奉献団の担当年度でした。今年も川曳は自粛、人数を制限し、宇治橋前からお初穂をそれぞれの町のほりを立てた大八車に載せてのお初穂奉納となりました。隊列にて神域を進み、お初穂は五丈殿にて奉納します。その後、参列者は正宮にて参拝しました。

伊勢神宮に参拝することを「参宮」といいます。

参宮之証(参宮紙札)の配布がはじまりました

「参宮」という言葉は、神社に参詣すること、特に伊勢神宮に参拝することをいい、伊勢では耳馴染みのある表現です。「一生に一度はお伊勢さん」と言われたほど、「お伊勢参り」は人々の憧れの旅であり、伊勢では古くからそんな参宮される方を「おもてなしの心」でお迎えしてきました。



参宮之証 参宮紙札にメッセージを添えてお渡します

伊勢御遷宮委員会では、次期御遷宮へ向けて令和の時代となった現在でも、伊勢の「おもてなしの心」をあらわす新たな取り組みとして、神宮のお正月ともいわれる神嘗祭の日より「参宮」に來られた方に「参宮紙札」をお渡ししています。

この「参宮紙札」は、伊勢に來ていただき神宮にお参りされた方に参宮の証としてお渡しし、お持ちいただくことで、伊勢との繋がりを感じていただき

伊勢に生きる私たちが「参宮」の意味を理解し、参宮の意味をお伝えしつつ、お渡しすることにより、神宮と共にあることを再認識し、旧神領民として次期御遷宮へ向けて心の準備等に繋がっていただければと考えております。

1年に1度は参宮にお越しいただきたいという思いから始めました。



現在、「参宮紙札」は、外宮・内宮周辺他市内の店舗のご協力を得て、毎月1日・15日を基本にお渡しさせていただいております。



■奉納するお初穂を収穫

伊勢神宮奉仕会青年部では初穂曳の活動の一環として毎年、奉納する稲穂づくりを行っています。8月28日(日)には3年ぶりに、初穂曳に参加する子どもたちも一緒に、稲刈りを実施することができました。